



クラブ・

サークル

訪問

第7回

バスケットボール部

バスケットボール部は対外試合に積極的に参加し、春の「四芸祭」、春と秋に行われる美大リーグに参加している。約二十名の部員たちが汗を流らせながら、今日もまた練習に励む。

体育館に流れる
柔らかく鋭い緊張感

藤井 龍

止まらない汗／全身の筋肉に瞬間的に指令を発し、身体感覚の領域をボールにまで広げ、そのボールをリングに入れる／汗／ボールと体育館の床の振動／視野から入る情報を最大限活用し、その一瞬先を読む／声／汗／ふくらはぎに溜る乳酸／汗／身体の僅かな動き、目の小さな動きがフェイク、相手を騙す／動悸／汗の匂い／靴の擦れる音／肺の過大な、過大な、膨張、収縮／ネットの揺れる音

バスケットボールは全身運動です。それは単に手足四肢全てを使うことではありません。私が言いたいのは、手足だけでなく、頭。つまり、脳で常に考えることが必要だということなのです。バスケットボールは一チーム五名、計十名が同



今春に開催された「四芸祭」で。結果は最下位に終わった

毎週火曜日と金曜日の五時から始まる体育館での練習風景

コートにいます。残りの九名の動きを考え、自分の動きを決定していきます。攻めと守りが著しく交替し、貪欲にボールを奪い合う様、時には華麗な身のこなしとパス回しを用い、ゴールを決める様は、十分な思考の上に成り立っているのです。試合の間中、精神も身体もコートを走り回っています。

現在、男女合わせて約二十名所属している藝大バスケット部は、ほとんどの者が、美術や音楽のプロフェッショナルを目指しているため、自分たちの創作活動が優先され、練習はどこか二の次でした。しかし、二〇〇八年「四芸祭」金沢大会での屈辱的大敗が、我々に純粹な悔しさだけでなく、練習へのやる気を与えました。今は一人一人に勝ちたいという欲望が芽生え、体育館には柔らかに鋭い緊張感が流れるようになりました。そして、以前より練習が楽しくなるとともに、改めて皆バスケの魅力に気付いたのでした。

強烈にぶつかり合う身体と身体／汗／思考のスピードに追いつかない、手足がある／露呈する精神的強さと弱さ／渴き／周りの人間が止まっている、私は浮遊しているのか／ゴール下の怖さ／自分の居場所を無視しようとする心臓。やさしく、やさしく／汗の味／残像のみの世界／五感が刺激される／「ナイッシュュー」／疲れた／汗／汗／一歩、一メートルの勝負、一歩がとつともなく長い／汗／指先に貼り付くゴムの凸凹／密閉された空気

火曜と金曜の放課後、藝大の体育館にはバスケットボールの弾む音がします。彼らは、過去の敗北から自身の練習の意味を見つけ出したのです。今後、練習の成果が出て、勝利を知るとそこからどのように変化するのでしょうか。来年の四芸祭が楽しみでもあり、怖くもあります。

(ふじい・りょう／美術学部彫刻科三年)